



教育計画と実践

宝仙学園短期大学附属
感応幼稚園 齋藤房江

(一) 指導計画の立案

指導計画は、幼稚園の一般で行われているものと、同じだと思いませんが、先ず、

〈年単位の指導計画〉

毎年三月の学期末に、職員会議において、一年間の実践の結果を反省して、新年度年間計画を決めます。

〈月単位の指導計画〉

年間計画をよく見通した上で、年長組（四組）と、年少組（四組）に、わかれて、毎月の中旬ごろに、翌月の計画をたてます。

〈週単位の指導計画〉

月単位の計画を具体化した、週の計画は各組毎に異なり、組担任の方針や特質を生かして案が立てられます。

〈月単位の指導計画〉

最も具体的な一日の計画は、保育日誌の中の「本日の計画」欄に、かきこみ、毎日必ず反省と評価が行われます。

(二) 日々の生活形式について

次に一日の幼児の生活形式についてみますと、一週間が、大体次

の三つの形式になっております。

(一) 毎週月・木の二日間は、園庭に全園児が集って、朝の体操を行ない、その後各組単位の保育活動に移る。

(二) 火・水・金の三日間は、朝幼児が登園してきたときから、各組ごとの保育活動が始まる。

(三) 土曜日は、朝の体操の後、お遊戯室において全園児の会集があります。本園は仏教主義の幼稚園ですので、仏さまのおつとめが、ごく簡単に行われ、それから、困らん会をします。

一日の生活形式は、一応以上のようになっておりますが、これは必ずしも、形式にとらわれることなく、融通性のあるものです。個々の幼児が、のびのびとした、自発的活動が出来るような生活は、きわめて大切であると思います。また一方幼稚園生活は、集団生活の場であり、その中では個人のわがままな行動はゆるされません。社会生活のきまりが、守れるよう、適応性の発達に応じて、生活指導をしていくことも、大切ではないでしょうか。困らん会を通して、全園児の横のつながりを持ち、ともに楽しみ合う気持ちから、友愛協力等も生まれ、情操が養われます。そしてこの機会に、集会の作

法も学んでまいります。

ではここで、毎日朝子どもがきてから帰るまで、どのような保育計画を立てて、実際にはどのように行われたか、毎日の保育の実際から拾ってみることにいたしましょう。

(三) 日々の生活の実際

美しく紅葉黄葉した葉が、風もないのに、ひらひらと散る園庭に、喜々として遊ぶ幼児たちは、幼いながら、秋の自然を感じていることでしょう。この季節の自然の変化、美しさを感じさせ、木の葉遊びを通して、観察をさせたいと計画した。

冬を控えて晴れた日には、つとめて戸外遊びをするように奨励してまいりましたので、戸外遊びにおける身体的な活動が、活発に行われるようになり、また同時に、室内室外をとわずこの遊びが、グループによって楽しく発展している光景がみられますこの頃、この日も、絵をかいている三、四人を残して、他の幼児たちは園庭で元気に遊んでおります。その中の五、六人は落葉拾いに夢中で、拾った葉で花束をつくったり、きつねをもみじの葉でつくったりしております。先生もその仲間入りをしますと、だんだん人数がふえてまいりました。そこへ、A君が息せききってかけてきました。

A「先生！ ちょっときて……みんなもお山へきてごらん、早く早く」（お山とは、宝仙寺の森のことで、山のように、のぼったり下ったり、自然の環境に恵まれ、幼児たちの好む遊び場所の一つ）みんなA君をかこんで口々に、「どうしたの」「何か、こわいものがあるの」A「アノネ、この前ラジオで聞いた、かえるが本当にあったよ」何のことがよくわかりません。ここで言語の指導の意味もふくめて、みんなにわかるように話をさせると、お山の大きな

石の下に、穴をほって、がまがえるが二匹冬ごもりを始めたというのです。ラジオで聞いたかえるとは、いつか放送された、「グルルとグルル」という、かえるの兄弟の冬ごもりのことでした。興味をもった幼児たちは案内役のA君の後からかけだしました。「静かに見なくちゃ駄目だよ」そっとしゃがんで、石の下の穴をのぞきこみます。「動かないね」「目を半分つぶっている」「のどが、びくびく動いているよ」「もう何も、食べないのかな」等と、そこで、貴重なかえるの冬ごもりについての、観察が始まりました。こうして、その日に豫想されない観察が行われました。望ましい具体的生活経験は、いつなるとき、このような機会に恵まれるかわかりません。そのチャンス逃さないように、指導していきたいと思います。そのうち、全園舎に、お集りのレコード（星の踊りの曲が、かかった

〈生活形式は(一)の場合のある晴れた一日〉

組長 年 週 月 日	
主 題	秋 の 自 然
目 標	木の葉の紅葉、黄葉、どんぐり、果物、野菜等身近にみられる秋の自然物を通して親しみ、興味をおこさせる。その美しさと、力の偉大な事

本 日 の 計 画 (月 日)	
経 験 活 動	園庭にて落葉拾いをする。種類の違った木の葉をくみ合わせ、いろいろな形や模様をいろいろな木の葉の名前や、色、形等を知る。
準 備	数種の木葉、画用紙、のり、のりつけのテーブルかけ、てふき等。
評 価	木の葉利用のものの形の構成あそびが、理解できたか。積極的に活動し、思いのままに表現出来たか。木の葉に親しみや興味を持ったか。

※一日の生活のプログラムは略す

ら集合の合図と決めてあります」が流れ、園庭や部屋で遊んでいた子どもたちは、それぞれ遊具を片付けて、各組の決められた場所に並び、元気に朝の体操を行い、その後、園庭を、レコードに合わせ、行進し、それからお部屋へ入り休息し、ラジオ「幼児の時間」を楽しく聞きます。本園では、土曜日をのぞいて毎日給食がありますので、給食室に組の出席数を報告いたします。幼児たちもこれに関心をもって、誰がお休みで何人欠席かということ争って調べ、組の今日の友だちを把握いたします。その日、一週間も病気で休んでいるお友だちのB子さんのことが話題にのぼりました。「幼稚園にこれなくて、かわいそうだね」とM君「いたい注射をしているかも知れないわね」と、N子さん……すると、友だちの誰からも、好かれてるリーダー格のK君が突然立って、「先生！今日はみんなで絵をかいて、いつかT子さんが休んだときみたいに、お見舞をしようよ」といい出しました。それをきいて殆どどの幼児たちは、「ワー！それがいい」「B子ちゃん、よろこぶわよ」「そうしよう」と賛成して、もう何をかくについて、話し合いが始まっています。S子さんは、「わたしは便箋をつくって、きれいな模様をかいて、お手紙かくの」と、はりきっております。実はこの後、話題を今朝みたかえるの冬ごもりや、落葉拾いをしたことから、今日の計画「木の葉の遊び」にもっていきたいと、思っておりましたが、どうも、子どもたちの気持がお休みをしているお友だちに、絵をかいて送りたいという方に、かたむき流れてしまいます。そこで、子どもたちのこの自発的な気持を尊重して、計画を変更してしまいました。ただ、助言として、絵をかいて上げるのもいいが、S子さんのように、便箋に模様をかいて字のかける人は、お手紙をかいてもい

いし、それから、今朝集めた落葉で、いろいろな形や模様をついたりしたのも、入れてあげると、B子さんもうれしいでしょうということ、話したので、誘導にのって作った幼児もいました。この場合は、幼児の興味に重点をおいて計画を変更したわけですが、この日のねらいは、落葉拾いするときにも幾分達成せられ、こちらの計画も、子どもたちの選んだ遊びの中にもお入りこめましたが、一方からみれば、幼児の動きに、流された保育ともいえるかも知れません。八百屋のお店を見学にいったり、いろいろな材料で、秋の野菜果物が製作され、いよいよ八百屋さんごっこも展開されるようになったある雨の日の一日――

今日は雨なので、室内の環境もよく調べて、幼児たちを迎えます。この頃のように風邪、猩紅熱、ジフテリア等流行性の病気が、地域によって伝えられているときは、視診にも特に注意します。

登園してきた子どもたちの遊びは、まだお互いに関連はなく、並行的な遊びです。その中にお友だちがふえるに従って、グループ遊びが生れ、発展してまいります。八百屋グループでは品物を入れる袋作りも終って、品物がお店にきれいに並べられ、準備が出来たらしく、「いらっしゃい、いらっしゃい」と、元気の良いS君の声に、他の遊びの子どもたちも、一応そちらに注意をむけました。そしてたちまち、「僕もいれて」「わたしも……」人数が倍にふえてしまいました。ここで何か問題がおこるかも知れないと見守っております。案の定、さわがしくなっております。しかし、これはH君の発言で「八百屋のとなりに、野菜とお金の、交換屋を出そう」ということで、分担役割も決ったようです。昨日は「野菜、果物」を売っているうちに、お店に品物がなくなり、それを返す、返さな

いでトラブルがありました。今日は、それを「交換屋」によって解決し、一歩前進いたしました。お部屋遊びのグループは、この「八百屋」と「ままごと」「積木と椅子で汽車ごっこ」の大体三つのグループに分れ、あとはお遊戯室でなわとびをしているグループがあります。少し長くやりすぎているように思いますので、休息の意味もふくめて、お部屋で八百屋さんが始まったから買いにいきましようとうと誘うと、すぐに応じて、なわを片付けて、部屋に入ってまいりました。この子どもたちと一緒に、お客さんになり、多角的な指導もふくめて、応待が始まります。ままごとのグループにも、お客さんとなっていくと、八百屋さんから果物をかってきて、お皿に

（二）の場合

11月 週（日～日）年長組	
主 題	八百屋さんごっこ
目 標	八百屋さんごっこを通して秋の野菜果物に関心を持たせるとともに自分たちでも製作をして観察工夫力を養う。ごっこ遊びをして社会的態度を養う。
本 日 の 計 画（月 日）	
経 験 活 動	ごっこ遊び ○それぞれのグループが、自主的に楽しく、活動出来るようにさせたい ○八百屋さんごっこを通して友だちの誰とでも仲良く遊ぶ。 ○それぞれのグループにつながりをもたせ、クラス全体が結びつきのある方向にむかせたい。
準 備	野菜（実物および製作品） 果物を入れておく籠、買物かご、はかりその他、工作用材料（画用紙、包装紙、おりがみ等）
評 価	○八百屋さんを中心にそれぞれのグループの結びつきは出来たか。 ○友だちと仲良く協同的な遊びが出来たか。

もって出してしてくれます。汽車グループの子どもたちに、「赤いおしいそうなりんご」がのっています。この汽車はどこから来たのでしょ

う」「寒い北の国から…… 僕たち今度、りんごやいろいろな野菜を運ぶ汽車になろう」早速、貨車が出来て、汽車グループは、ままごとグループ、その他野菜、果物を買った人たちから買い集めては、汽車にのせ、交換屋にいった、品物とお金を交換してあります。いつも一人遊びの多いC君も、今日は積木の汽車のグループの一員として、「大きな帽子」（駅員の制帽）をかぶって、積木の汽車に、のっています。この帽子に魅力を感じて仲間入りをしたというわけです。このC君は、強情で、協調性がないので、友だちからはあまり好かれませんが、今日は比較的率直にルールを守って、ゆかいそうに、仲間入りしております。これらの遊びの中には、いろいろな生活経験がふくまれております。それぞれのグループの個々の顔ぶれは、交流がありましたけれど、八百屋さんを中心として、つながりを持ち、自発的な形で活動いたしました。以上一、二の例を上げてみましたが、一日の保育計画を実践していく場合にも、いろいろの問題にぶつかります。たとえば、子どもの動きが他の方向にかたむいた場合計画通りに進めるか、あるいは変更すべきかは、そのときその場合によって、違ってくると思います。

集団生活をしていく上には、幼児も幼児なりに、社会の一員として、きまりを守って生活していかなくてはなりません。ときには一定の時間に一定の生活をする事もあり、そのためには、自分の要求をおさえても、そのきまりに従わなくてはなりません。とくに年長組ともなりますと、小学校との関連も考え、幼稚園生活と小学校生活の指導に、差がありすぎて、小学校に入学した子どもにも、シヨックをあたえたり、きゅうくつな感じを持たせ、不安な気持ちにさせるようなことのないように、注意しなければならぬと思います。